

遺伝性乳がん卵巣がん  
症候群(HBOC)

\*\*\*

DNA損傷修復に関与するBRCA1と2のどちらかの遺伝子に変異があると、高率(40～85%)に乳がん、卵巣がん、(膵臓がん、前立腺がん)を発症します。常染色体優性遺伝のため50%の確率で親から子へ体質が伝わります。

2013年、BRCA1遺伝子変異を持つ女優アンジェリーナ・ジョリー(米)が両乳房と卵巣を予防切除しましたが、現在では他のリスク低減策もあるので慎重に判断すべきです。HBOCは、日本の乳がん女性の4～5%、男性の15～20%を占めます。乳がんにかかっているなどの条件が揃えば、保険適用(3割負担で約6万円)でBRCA1/2検査が受けられます。

# 健康 ♪ 外来ニュース

乳がん

\*\*\*

日本人女性では年間約9万人が罹患して約1万4千人が死亡し、生涯で9人に1人が乳がんになるとされます。乳がん発症は女性ホルモン(エストロゲン)にさらされる期間(量)と関連するので、30歳代から増加し40歳代後半にピークとなり60歳後半から漸減します。肥満、早い初経、晩婚・出産経験なし、喫煙、飲酒もリスク因子です。乳がんの50%は乳房の外側上部～腋窩に生じます。我が国の乳がん検診は、視診・触診の有用性が疑問視されたため、2004年からは40歳以上を対象に隔年にマンモグラフィ単独で行われることが多くなっています。検診の受診率は、国が行う対策型で20%前後、人間ドック等での任意型を加えても50%弱と低迷しています。

マンモグラフィ(乳房を圧迫して行うレントゲン撮影。乳房が張っていない月経後の方が痛みが少ない)は乳がん死亡率の減少が証明された唯一の検診手段です。微細石灰化・構築の乱れは発見しやすいですが、正常の乳腺も乳がんも白く写るので、乳腺が発達した‘高濃度乳房’の若年者では乳がんを見落とす可能性があります。30歳代までは痛みや被ばくのない超音波検診が勧められます。検診結果は異常なしから悪性まで5段階で判断して、カテゴリ-3(良性だが悪性を否定できず)以上は専門医に受診します。乳がんが見つかるのは要精検者の4%程度と少ないので過度に恐れる必要はありません。いざとなれば、迷わず！科学的根拠に基づいてガイドラインで推奨する標準治療(保険適用)を選択しましょう。

ブレスト・アウェアネス

\*\*\*

月1回の乳房の自己触診だけでなく、「乳房を意識する生活習慣」をもつことが勧められています(英、1990)。普段から自分の乳房の状態を知り、変化に早く気づいて専門医へ受診する、マンモグラフィ検診を必ず受け、生涯ヘルスリテラシーの向上に努めるなど。乳がん死亡を減らすため、毎月19日はピンクの日です。



医療法人 祥佑会

藤田胃腸科病院

〒569-0086 高槻市松原町17-36

TEL 072-671-5916

FAX 072-671-5919

健康 ♪ 外来

水曜日 14:00～17:00(要予約)

担当：中嶋